

項 目		内 容
(1) 実現したい未来		市民の利便性の向上及び市行政の効率化
(2) R6年度の活動計画		・国の動向等を踏まえた利活用策の検討と市民周知 ・窓口業務内容の変化（電子証明書の更新、マイナ保険証の登録）への対応 ・希望するすべての市民へのマイナンバーカードの適正な交付
(3) 上半期の成果	①定量的	・マイナンバーカードの休日窓口と平日延長窓口開設（R6. 4月～8月/月1～2回開設、窓口受付件数521件） ・代理申請、サポート事業者への案内（R6. 5月案内/527箇所、受付件数/5件12人）
	②定性的	・マイナンバーカード普及、利活用状況の数値を把握し関係課へ共有（毎月実施） ・出前講座への対応（8月22日/大胡第一老人クラブ）
(4) 下半期に向けて必要なやりくり		・上半期の取組を継続して実施する ・マイナンバーカードの保険証利用登録等支援窓口を支所、市民SC等にも増設予定（10月～来年2月） ・出前講座（10月）、共愛学園前橋国際大学寄附講座（来年1月）を実施予定
(5) R6年度予算要求 （新規・拡充）	内容と金額	・なし

WG名		ミライズWG		上半期総括フォーマット	
項 目		内 容			
(1) 実現したい未来		自治体の本質的な使命実現のため、職員でなければならない企画立案業務や住民への直接的なサービス提供に注力できること。			
(2) R6年度の活動計画		・R5年度活動テーマの継続（実証、具現化及びブラッシュアップ）、着地（複業成果発出） ・R6年度新テーマの検討 ・職員課行動理念（クレド）検討チームへの参加			
(3) 上半期の成果	①定量的	・【たすけあい+】依頼17件（※切前後問わず）、人材登録73名 ※9/18時点 ・【たすけあい+】他自治体等からの取材対応、資料提供依頼複数あり ・【たがやす。】月1回発行中 9月時点でVol. 12到達 ・【全体・たすけあい・越境WS】通常MTG合計11回 （他活動含めると約20回程）※9/18時点			
	②定性的	・【たすけあい+】実証実験第二弾開始、庁議報告、記者会見、他所属のフォロー ・【たすけあい+】定期的にアプリの機能改善リリース実施 ・【越境WS】庁議報告、9/26第一回開催予定 ・【たがやす。】市長動画掲載 ・【職員課行動理念】検討チームへの参加、市長ランチミーティング参加			
(4) 下半期に向けて必要なやりくり		・【たすけあい+】実験の中間アンケート実施、集計、効果検証。分析をもとに実験後半は制度設計をブラッシュアップ、アプリの機能改善等。 【たすけあい+】年度末に再度アンケート実施検討、R6全体の効果検証の実施、次年度以降の展望を検討。 ・【越境WS】第一回WSの結果分析を踏まえWSのブラッシュアップ、第二回の検討。			
(5) R6年度予算要求 （新規・増分）	内容と金額	・特に無し			2

項 目		内 容
(1) 実現したい未来		全ての所属が変革による価値創造を目指し、自主的・自律的にBPRできる環境をつくる
(2) R6年度の活動計画		BPR整理シートを基に、グループ活動により共通課題の解決、伴走支援により個別具体の課題解決を目指す。 【グループ活動】①新電子申請システム ②補助金 ③MS365活用 ④Web版Excel活用 ⑤庁内問い合わせ対応 ⑥PowerPlatform活用 ⑦AI-OCR・RPA 【伴走支援】優先度に応じた伴走支援
(3) 上半期の成果	①定量的	①新電子申請システム・伴走支援については、以下項目全て別紙。 【グループ活動】⑥PowerPlatform活用：新規アプリ7件導入済み。 ⑦AI-OCR・RPA：新規AI-OCR3件、新規RPA2件導入済み。
	②定性的	【リーダー会議】働き方や業務手法の変化に対応したBPRを実現するため、ChromebookやMicrosoft365を含むツール活用に関する定期的な情報発信を検討。 【グループ活動】③MS365活用・④Web版Excel活用：リーダー会議の活動に包含。 ⑥PowerPlatform活用：外部委託によるアプリ作成研修を開催（全6回中5回終了）。 ⑦AI-OCR・RPA：RPA操作研修の開催。RPAの保守・引継ぎに関する課題解決に向けた検討を開始。
(4) 下半期に向けて必要なやりくり		【リーダー会議（③④含む）】有効な情報発信方法の選定。発信するネタの収集。⇒発信開始。 【グループ活動】②補助金・⑤庁内問い合わせ対応：活動開始に向けた情報収集等を行う。 ⑥PowerPlatform活用：研修後の個別質問への対応。R7横展開を見据えたアプリのパターン化の検討。 ⑦AI-OCR・RPA：基幹システム標準化とRPA作成者の人事異動に対応するため、RPAの利用実態や各RPA担当者のスキル等を調査し、担当者間で適切な保守・引継ぎが行えるよう対策を講じる。
(5) R6年度予算要求 （新規・拡充）	内容と金額	なし

WG名	BPR推進WG（伴走支援）
-----	---------------

項 目		内 容
(1) 上半期の成果	①定量的	○対象63所属中、着手済み37（58.7％）。 第1期（新電子申請システム、AI-OCR・RPA、PowerPlatform）：20所属全て着手。 第2期（Microsoft365活用・Web版Excel活用 等）：10/17所属（58.8％）着手。 ○対象63所属中、BPRが完了したのは11所属（17.5％）。
	②定性的	なし
(2) 下半期に向けて必要なやりくり		【伴走中の所属】 定期的にモニタリングを実施するとともに、適宜解決策を提案することで、スムーズにBPRが完了できるよう継続的にサポートしていく。 【未着手の所属】 第1期・第2期の進捗を勘案した上で現状把握を行い、対応を検討していく。 【行政手続きの出口のオンライン化】 電子署名の実装に向け、ツールの検討等を進めていく。
(3) R6年度予算要求 （新規・拡充）	内容と金額	なし

項 目		内 容
(1) 上半期の成果	①定量的	・行政手続きのオンライン化状況（令和6年7月24日時点）：162/2, 213件（7%） ・LoGoフォームのフォーム作成研修を開催（2回開催、参加者数90名） ・LoGoフォームのフォーム作成会を開催（月1回合計3回開催、参加者数71名）
	②定性的	・ぐんま電子申請受付システムからLoGoフォームへ移行完了（8月末） ・作成したフォームを報告するアプリを作成 ・本市作成のフォームを取りまとめたポータルサイトを作成
(2) 下半期に向けて必要なやりくり		DX推進計画では、令和7年度末までに<u>全ての行政手続き</u>のオンライン化を目標に掲げており、下半期は以下を実践する。 ①目標達成に向けたアプローチ ・オンライン化実装の優先順位付けと庁内周知 ・優先度の高い手続（本人確認が不要、手続件数が多いなど）のオンライン化実装支援 ・行政手続きのオンライン化対応状況を把握できる仕組みの導入 ②ナレッジマネジメント ・LoGoフォーム及びオンライン化に関する情報の集約 ・LoGoフォームの利用開始からフォーム作成後の運用までの手順書作成 ・LoGoフォームのナレッジ共有 ・研修及びフォーム作成会の継続
(3) R6年度予算要求（新規・拡充）	内容と金額	・なし

項 目		内 容
(1) 実現したい未来		市民がいつでもどこでも簡単に施設利用ができる仕組みを実装する。また、施設管理の観点からは業務の効率化や運営コストの削減を図る。
(2) R6年度の活動計画		・貸館予約システムの横展開 ・スマートロック導入
(3) 上半期の成果	①定量的	・いつでも貸館システムを2施設（中央公民館、ローズタウンサッカー場）で本稼働し、問題なく稼働中。
	②定性的	・リモートロック導入施設の決定、導入に向けてスケジュール等確認。
(4) 下半期に向けて必要なやりくり		・地区公民館、コミュニティセンターでのシステム本稼働準備を進め、10月1日より本稼働開始 ・リモートロックの導入、本稼働準備（施設のWifi状況確認、リモートロック取り付け工事、いつでも貸館システムとの同期）を進め、本稼働開始（R6年度中）
(5) R6年度予算要求 （新規・拡充）	内容と金額	・いつでも貸館保守業務 2,772,000円 ・リモートロック保守業務 1,267,200円（新規）

項 目		内 容
(1) 実現したい未来		生活者の価値やユースケースを起点とした新しい発想で、人と人との繋がりが、地域の暮らしをより豊かにしたり、地域が抱える課題を解決できること。
(2) R6年度の活動計画		①オープンデータの推進 ②地域アーカイブの推進（地域資産のデジタル化、保存、活用）
(3) 上半期の成果	①定量的	—
	②定性的	①・オープンデータ勉強会の実施（6/25） ※15所属出席 ・公開範囲の検討 ※8/末時点で13項目を予定 ・オープンデータカタログサイトのテスト環境試行 ②・前橋工科大こども科学教室にて、R5年度地域アーカイブ活動の成果共有（8/10-11）
(4) 下半期に向けて必要なやりくり		①スケジュール調整 ・データの整形（年内まで） 公開決定の項目に対して、標準データセットに沿ったデータの整形作業を実施 ・データの公開（来年2月まで） 準備が整った項目から、オープンデータカタログサイトへ掲載 ・その他（来年2月まで） 掲載データのメンテナンスルール及び追加公開項目の検討 ②新規企画の立案
(5) R7年度予算要求 （新規・拡充）	内容と金額	—

WG名

デジタルデバイド解消WG

上半期総括フォーマット

項 目		内 容
(1) 実現したい未来		年齢、性別、障害の有無等にかかわらず、誰も取り残されない形で、市民にデジタル化の恩恵（日常の困りごとが解消されたり、今よりも暮らしが便利になったと実感できる）を広く行き渡らせること。
(2) R6年度の活動計画		・まえばしデジタルサポーター制度の拡充 ・市独自のスマホ講座の実施
(3) 上半期の成果	①定量的	・サポーター登録数 69人（累計） ・デジタルよろず相談所 相談件数 563件 ・Mデジ“学び合い”出張サポート 相談件数 289件 ・ICT関連企業への登録勧奨回り 3社
	②定性的	・市独自のスマホ講座対象者の決定 ⇒ 介護予防サポーター ・Mデジ周知の拡充（生涯学習フェス、SDGsDays、地域づくり連絡会）
(4) 下半期に向けて必要なやりくり		・サポーター数120人達成に向けてさらなる登録勧奨を実施する →デジタルデバイド解消WG内だけではなく全庁的な協力が必要
(5) R7年度予算要求 （拡充）	内容と金額	まえばしデジタルサポーター事業運営業務 11,500千円 スマホ講座 5,000千円 （デジ田交付金（地方創生枠）で採択済）